

令和6年度（2024年度）A級公認審判員の目標



全日本大会の審判員を担当することができるのはA級、B級の審判員である。その中で特にA級審判員には下記の点において期待したい。

- ① 全日本大会のみならず、日本リーグおよび日本選手権へのノミネートを目指し、さらには日本協会指名レフェリーとして認められ、各種大会での模範レフェリーとして活躍する。
- ② 「審判員の心得10箇条」を熟知し、人間性を発揮し、大会審判長、副審判長を補佐して、審判団のよきリーダーとして活躍する。
- ③ 試合において立ち居振る舞いはもちろんのこと、事実を正しく見極め、適切な判断基準を元に、的確な判定を下し、TOやオフィシャル、チームとの連携をとりながら試合を円滑に進める。
- ④ ハンドボール競技の特徴を理解した上で、試合の流れやプレーの展開の予期・予測による観察と瞬時の判断力を持つ。

以下に（公財）日本ハンドボール協会審判本部作成の「レフェリー評価票」をもとに、A級審判員として追求したいレフェリーの姿とそのポイントを明記する。

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(1) ゲーム管理・運営（モダンハンドボールの理解）	レフェリーとしての要素・全体的印象	試合に関する確な態度であるか。 タイミングが遅れた介入でゲームを見失っていないか。	○競技開始前の準備 ○リーダーシップ
	振る舞い 選手・役員とのコミュニケーション	姿勢は正しいか。 「穏やかに」重大な判定を下し、「明確に」チーム役員・プレーヤー・オフィシャルに対し、ボディランゲージや口頭による説明ができていないか（怒らせる・失礼である・傲慢である・親切過ぎる）。	○レフェリーの人間性 ○丁寧な指示と運営 ○TO、オフィシャルとの連携 ○チーム役員、選手との関係作り
	チームとの関係・平等であるか	試合に関する感情。公平な態度であるか。 双方にバランスのとれた判定に心がけているか。 一方のチーム役員やプレーヤーと接触していないか。 弁解や妥協しがちではないか。 ヤジとか批判に簡単に影響されていないか。	○コミュニケーションのバランス ○判定のバランス ○放置しない毅然とした対応
(2) 連携	チームワーク（オフィシャルを含めて）	誰が見ても分かるように、パートナー・オフィシャルとの協力ができているか。	○目に見えるコンタクトの雰囲気 ○通信機器の活用
	ペアで均一な判定	1人のレフェリーが支配したり、されたりしていないか。	○領域分担と判定者が一致しているか
	領域分担	パートナーの責任範囲を侵していないか。 侵していることに気づいているか。	○ゴールエリアライン間際の責任領域はゴールレフェリーである
(3) ゲームの観察	レベル・カテゴリーに応じた基準	プレーヤーの発達段階を考慮し、ゲームの流れを理解しているか。 ゲームの流れに反した判定をしていないか。	○レベルに応じて運用するがルールを変えてはならない
	アドバンテージ・不必要な笛 発展性のないプレーの見極め 笛のタイミング	明らかな得点チャンスでのアドバンテージを見ているか。 アドバンテージ後の罰則を与えているか。 ルール違反のアドバンテージを与えていないか。 不必要な笛でプレーを止めていないか。 発展性のないプレーの見極めと、笛のタイミングは適切か。	○3歩、3秒の保障 ○不要な笛を減らす ○発展性のないプレーの見極め ○2重のアドバンテージを与えない ○笛のタイミング

評価項目		評価の着眼点	指導のポイント
(4) 1対1の 局面	罰則 8:4にある即座に 2分間退場への準備	各種罰則を適用すべき判断基準を理解しているか。 許容範囲のハードプレーとアンフェアなラフプレー の区別ができていないか。 第8条に一致しない罰則を与えていないか。 スポーツマンシップに反する行為の見極めは妥当か。	○即座に2分間退場とすべきプレー を適切に見極めている ○試合開始直後からの準備 ○競技終了前30秒間の集中
	チームに基準が理解 されているか	罰則の有無の判断基準が適切か。 罰則がよいバランスで判定されているか	○判定の後のボディランゲージ ○プレーヤーへの基準の伝え方
	ハリウッドアクションの 見極め	ハリウッドアクションを見抜き、予防的な処置を含め た、適切な処置ができていないか。	○大きな声、影響と倒れ方の関係 ○心の準備
(5) 攻撃側の 違反	ボールを持った プレーヤーの違反	攻撃側の違反を判定すべき判断基準を理解している か。 違反を見逃していないか、探していないか。 正しい防御活動を認めているか。	○攻撃有利のフリースロー判定が多 くないか
	ボールを持たない プレーヤーの違反		○ゴールレフェリーがボールばかり 追っていないか
	正しいブロック/ 不正なブロック		○接触・違反のスタートの見極め
(6) 7mスロー	明らかな得点チャン スの見極め	適切に7mスローを与えているか。 明らかな得点チャンスの判断基準を理解しているか。 明らかな得点チャンスでないものに7mスローを与え ていないか。 GK不在の状況での明らかな得点チャンスの見極め。	○防御側プレーヤーの位置観察がで きていないか
	ゴールエリア侵入と 影響の見極め		○押し込まれたエリア侵入を見極 めているか
	ボールを所持してい ない明らかなチャンス		○違反がなければ明らかな得点チ ャンスになるプレーへの心の準備
(7) 違反	ステップ・ダブルド リブル・オーバート イム・明らかな着地 シュート	正しく判定しているか。 明らかな得点チャンスを妨害され着地してシュート した場合は、7mスローに戻しているか。	○ステップ2歩+2歩の見極め ○ステップを誘発させる防御行為の 見極め
	足を使った違反		○足を使った行為について適切に処 置
	各種スローの判定と 適切な実施		○ポイントの指示 ○正しいスローをしたか ○防御側プレーヤーの位置 ○修正後の再開の笛
(8) 時間の管理 (モダンハ ンドボール の理解)	パッシブプレーの予 告合図のタイミング	適切な判断基準のもとで予告合図のタイミ ングは適切か。	○選手交代、各種スローの実施の遅 延に伴う予告合図 ○退場者がいる場合
	パッシブプレーの 判定	違反を判定するタイミング、および判断基準は適切 か。	○ボールを持ったプレーヤーがゴール に向かっていない状況で違反の笛を 吹かない
	的確なタイムアウト ・不要な中断をしない	ルールに則って両チームに平等に与えているか。 与えずぎていないか。 タイミングが遅すぎているか。	○タイムアウトを取らなければなら ない場面で適切に対処できているか ○競技時間の短縮を工夫しているか
(9) 動き 位置取り ジェスチャー	動きと位置取り ・笛をどこで吹くか	2人の死角はないか。 攻撃側と防御側の「間」を観察しようとしているか。 プレーヤー・ボールから目を離してはいないか。 サイドチェンジのタイミングは適切か。	○防御形態に応じた領域分担が臨機 応変 ○レフェリーの基本走法 ○7mスロー時の観察位置
	明確なジェスチャー ・笛の音	判断基準を適切に説明できる明確なボディランゲ ージを用いているか。 最初に方向指示をしているか。 笛の音は適切か(強弱、長短、軟硬の使い分け)。	○罰則、7mスロー判定の後 ○笛の音色で判定の種類がわかる
	体力・走力	レフェリングをするにあたり、十分な体力を有してい るか。	○コート上でのウォーミングアップ ○後半でも走力が維持できる

令和6年度（2024年度）B級公認審判員の目標



B級審判員より全日本大会への参加資格が与えられる。国内のトップチームの試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を習得することが必須である。

以下にB級審判員が習得すべき事項について記載する。コート上で1人のレフェリーが主導権を握るレフェリーシステムは、ハンドボール競技には適さない。パートナーと常に連携と相互理解を図り、両レフェリーは様々な状況に関する考え方が一致していなければならない。レフェリーの任務も正しく分担されなければならない。

<試合前>

- 1) トスには指定された時間に両レフェリー、TOが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 2) ユニホームの確認は、必ずTOと協力し行う。色やデザインが判別し難いものは着用させない。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。相手コートプレーヤーの色とチーム役員の色とが重複しないように呼びかける。また、プレーヤーの装具についても規定にあっていないかどうか、TOと協力し、観察しておく。
- 3) ゴールやゴールネット、ボールなどの点検は前もって（選手紹介や選手の確認の前）行い競技開始直前に行わない。
- 4) オフィシャル席の仕事を理解し、シンプルかつ分かりやすく各種の合図をする。試合開始前に必ずオフィシャル席と業務の確認、および機器の操作の確認を行うこと。

<試合開始時>

- 5) 競技の開始時刻を守る。（早く始めない）早めに選手紹介等が終了したとしても、開始時刻が定刻となるようにTO、両チーム役員に開始までの時間を明確に伝える。

<試合中>

○ 得点の管理, 時間の管理

- 6) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。
また、時間の管理(タイムアウト)は1試合を通して同一の基準で、公平かつ平等に競技規則に則って処理する。どちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 7) コート内のプレーヤーとボールから決して目を離さない。
- 8) 得点合図の後、ゴールの後ろを通過して、決して2人の位置を交代しない。ただし、ノーゴールキーパーの状況を除く。
- 9) バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 10) 走りながら、あるいはプレーヤーに背を向けて方向指示やジェスチャーをしない。判定の後その直後の選手、ボールの動きを必ず確認し、次の行動へ移る。
- 11) ゴールレフェリーは、コート内に立たないことを基本とし、展開に応じて前後左右に移動する。
- 12) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレーヤーの利き腕側に立ち、素早く移動し、シュートの軌道とGKの動きが正しく観察出来る位置をとる。
- 13) CP7名の状況で、GKとCPの交代の妨げにならないような位置取りを。

○ 判定の手順、ジェスチャー

- 14) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー ④ボディーランゲージ
- 15) 正しいジェスチャーを用い、余計なレフェリーのアクションやコミカルな動作は慎む。

○ 立ち居振る舞い

- 16) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで、プレーを観察することがないように。
- 17) コート上で腕組み、両手を腰に当てる、ポケットに手を入れる、休めの姿勢など論外。
- 18) 「穏やかに」判定を下し、全力で違反したプレーヤーやポイントへ駆け寄らない。

○ 役割分担

- 19) ピボットプレーヤーの観察は、コートレフェリー、ゴールレフェリーで連携する。
- 20) ゴールエリアライン際の判定は、ゴールレフェリーが判定する。
- 21) 領域分担を明確にし、ペアのレフェリーの近くで起こっているプレーに対して、遠い位置から判定をしない。

○ 競技規則の正しい運用

- 22) 警告、退場を判定する際は、その理由をボディーランゲージで大きく示す(何度もやらない)。
- 23) 競技規則に則った「判断基準」のもとに判定を下す。「判断基準」をもとに説明ができる。
- 24) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

<試合終了後>

- 25) 公式記録用紙に正しく記入されているかどうか確認する。



< B 級公認審判員チェックリスト >

試合前
確認チ
ェック
☑特に課
題とす
る項目
に○終了後
できた
項目☑

◆試合前

- 1) 両レフェリー、TD が立ち合いのもとトスを実施
- 1) メンバー表、登録証の確認
- 2) ユニホームの確認 (濃淡・デザインがはっきりしたもの: チーム同士、レフェリーウェアとチーム)
- 2) チーム役員のウェアの確認 (相手チームのコートプレーヤーと重複していないか)
- 2) プレーヤーの装具は、規定に沿ったものかどうかを観察
- 3) ゴールやゴールネット、ボールの点検 (事前に)
- 4) オフィシャルとの連携 (業務の確認、機器操作・動作の確認)

◆試合開始前

- 5) 定刻でのスローオフか

◆試合中

得点の管理、時間の管理

- 6) 得点の管理は出来ているか (得点のたびに確認しているか)
- 6) 時間の管理 (タイムアウト) は競技規則に則って処理できているか
- 6) 時間の管理はできているか (目視による公示時計の動作確認)

走法と位置取り

- 7) コート上の選手とボールから目を離していないか
- 8) 得点合図の後に、位置の交代をしていないか
- 9) ゴールレフェリーへの移動時: バックステップで移動していないか
- 10) 走りながら、あるいは選手に背を向けて方向指示やゼスチャーをしていないか
- 11) ゴールレフェリー時: 同じ場所に立ち続けていないか (展開に応じて左右に移動)
- 12) 7m スローの際のコートレフェリー: スロアの利き腕側・GK を観察できる位置にいるか
- 13) GK 不在時の攻撃 (6 人 or 7 人) で、レフェリーの位置どりは交代の妨げとなっていないか

判定の手順、ゼスチャー

- 14) ①笛 ②方向指示 ③(必要に応じ)ゼスチャー の判定の手順を守っているか
- 15) 正しいゼスチャーを用いているか

立ち居振る舞い

- 16) ペアで同じ種類の笛を使用しているか
- 16) 笛を口にくわえたまま観察していないか
- 17) コート上での立ち姿はどうか (ポケットに手を入れる、休めの姿勢になっていないか)
- 18) 穏やかに判定しているか (罰則を出しに行く、ポイントへ行く際、全力で駆け寄っていないか)

役割分担

- 19) ピポットプレーヤーと防御プレーヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか
- 20) ゴールエリアライン際の判定は、ゴールレフェリーが判定しているか
- 21) ペアでの領域分担は明確か (相方の近くで起きたプレーを遠い位置から判定していないか)
- 19)、20)、21) について、通信機器を有効に活用できているか

競技規則の正しい理解

- 22) 警告や退場を判定する際、その理由をボディランゲージを用いて大きく示しているか
- 23) 競技規則に則った「判定基準」のもと、判定をしているか
- 23) 判定をする際、「判定基準」を用いて説明することができるか
- 24) 差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか

◆試合終了後

- 25) 公式記録用紙に正しく記入されているかどうか確認したか

